



東京六本木ロータリー・クラブ

TOKYO
ROPONGI
ROTARY CLUB



平成22年7月12日
ガバナー補佐公式訪問
卓話 『ロータリーの原点に戻る』
RI 第2750地区・山の手東グループガバナー補佐
花岡 弘昌 様



ご紹介をいただきました花岡でございます。私はまだロータリーは満20年になっておりませんが、昨年からガバナー補佐のエレクトとしていろいろと教わってまいりました。ロータリーはなかなか奥が深くて、クリンギンスミスも奉仕、親睦、多様性、高潔、リーダーシップと5つのことをおっしゃっています。この辺が基本じゃないかと思っておりますので、私としてはその線に沿って、できるだけのことをしたいと思っております。

2006年に導入されたCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）はちょっと生煮えで、実は良く分からぬところも多いわけです。これを始めたのは2003年ごろから。つまり今世紀に入って世界的に減員が始まって、今、大体ピーク時の1割減。日本も10万を超えてたのが9万台に落ちたのはどうしてだろうということで、ロータリーの蘇生、再生、活性化ということを踏まえて、小さなクラブでもできるようにという組織の簡素化が1つ入っております。

しかし本題は、むしろ世界的に起こって来たロータリーの勢いのなさ。これを活性化するには、少なくとも3年間の継続性、将来を見据えた計画性を導入しなきゃ駄目だということで、長期計画、あるいは効果的なクラブのひな型を作り、皆様にもお願いしたというわけでございます。各クラブに自主的にやっていただくとしても、やはり地区の力は素晴らしいものがございます。地区の方の責任感と情熱、とてもとても素晴らしいもので、私どもガバナー補佐やグループ幹事は間に入って、地区の情熱、責任感を皆様にお伝えする役目

でございますが、それがあたりまして、地区では目下、今年初めてのケースとして研修のプログラムを新しくいたしました。

ロータリーは1905年に始まって105年ですが、これを4つに切って、25年ごとの特徴を出して、それを勉強しようじゃないかということでございます。私が今日持てて来たのは、千葉にあるロータリーのガバナー事務所の文庫でVHSのビデオを見つけ出してDVDに変換したものです。1905年にポール・ハリスがロータリーを立ち上げたその時に戻って、もう一度考え直す必要がある。未来を解く鍵は歴史の中にあるということです。

一つ目のものにはロータリーが誕生した当時のシカゴの街の様子だとポール・ハリスの生い立ちが紹介されている1905年から1930年までの映像が入っていて、この辺のところは私もあり知らなくて、初めて見ました。二つ目のものにはポール・ハリスが亡くなる5年前の映像が収録されています。この中で、創設当初、ポール・ハリスがロータリーをどういうふうに考えていたか、会員の質問に答えている場面があって、ご本人の声を聞くことができます。このDVDはリーダー研修を10月に考えていますので、そこでのお楽しみということにさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

